第２章９節

看護師国家試験必修問題の出題内容・形式の分析および評価と作問への提言

～ 看護学生ならびに臨床看護師を対象とした Web 調査から ～

聖路加国際大学　林　直子
神奈川県立保健福祉大学　水戸　優子
順天堂大学　野崎　真奈美
聖路加国際大学　縄　秀志

研究要旨

本分担班は、看護師国家試験の必修問題の内容の適切性、習熟度等について明らかにすることを目的に、看護基礎教育課程最終学年の学生と、卒後３年以内の臨床看護師を対象に質問紙調査を行った。過去３年間の必修問題の中から、「良問」９問と「改善により良問となり得る問題」15 問、あわせて 24 問を抽出し分析対象とした。大学、看護専門学校、病院合わせて 235 施設の協力を得て、看護学生 1,032 人、看護師 713 人に調査への協力を依頼、看護学生 550 人（回答率 53.2%）、看護師 242 人（同 34.0%）の回答を得た。分析の結果、24 問中 19 問で看護学生の正解率が看護師を上回り、難易度、必要性、臨床状況との合致の程度についても、看護学生が看護師に比べ肯定的な評価を示す者の割合が高かった。学生は学習内容全体を必要な知識と捉え、看護師は臨床経験に基づき必要度、臨床状況との合致を評価したことが推察された。本調査結果に基づき、必修問題の難易度、内容、対象とする分野の範疇、さらに禁忌選択肢の導入など、９つの提言を挙げた。

１．研究目的

本分担班は、過去３年間の看護師国家試験問題のうち、市販の複数の問題集で必修問題として扱われている問題（以下、必修問題）の内容の適切性、習熟度や問題構成、出題形式等の妥当性について、看護基礎教育課程最終学年の学生と、卒後3年以内の臨床看護師を対象に質問紙調査を行った。本調査結果から、看護師国家試験の必修問題における出題内容や出題方法、出題形式に関する課題を明らかにすることを目的とした。

２．研究方法

１）問題分析

看護師国家試験過去 3 年間の必修問題の中から、佐々木分担班の問題分析の結果（第 3 章）を参照し、「良問」9 問と「改善により良問となり得る問題（以下「改善問題」とする）15 問、あわせて 24 問を抽出した。抽出した問題の一覧ならびに抽出

表1. 抽出した問題一覧

web調査問題番号	良問/改善	国家試験問題		選出根拠①～③（改善のみ）	設問文
1	良問	106 午前	6	※正答率が高く（90～95%程度）識別指数は0.2以上の問題	乳児の体重が出生時の体重の約２倍になる時期はどれか
2		106 午前	23		成人患者の気管内の一時的吸引における吸引圧で正しいのはどれか
3		107 午前	3		シックハウス症候群に関係する物質はどれか
4		107 午前	17		鍵をかけた堅固な設備内保管を法律で定められている医薬品はどれか
5		107 午後	10		股関節の運動を図に示す．内転はどれか
6		108 午前	8		母乳中に含まれている免疫グロブリンで最も多いのはどれか
7		108 午後	1		平成28年（2016年）の総人口に占める老年人口の割合で最も近いのはどれか
8		108 午後	18		成人のグリセリン浣腸で肛門に挿入するチューブの深さはどれか
9		108 午後	25		腎機能を示す血液検査項目はどれか
10	改善により良問となり得る問題	106 午前	12	②	喀血が起こる出血部位で正しいのはどれか
11		106 午前	19	①	足浴の効果で最も期待されるのはどれか
12		106 午前	20	③	療養施設等の騒音について、環境基本法に基づく環境基準はどれか
13		106 午後	6	②	肺サーファクタントの分泌によって胎児の肺機能が成熟する時期はどれか
14		106 午後	8	①	基礎代謝量が最も多い時期はどれか
15		106 午後	10	②	病床数300床以上の病院における感染制御チームについて適切なのはどれか
16		106 午後	23	①	氷枕の作り方で適切なのはどれか
17		107 午前	13	②	関節や神経叢の周辺に限局して起こる感覚障害の原因はどれか
18		107 午前	16	①	排便を促す目的のために浣腸液として使用されるのはどれか
19		107 午前	21	①	経腸栄養剤の副作用（有害事象）はどれか
20		107 午後	16	②	インドメタシン内服薬の禁忌はどれか
21		108 午前	3	②	セリエ，H．が提唱した理論はどれか
22		108 午前	17	②	心音の聴取でⅠ音がⅡ音より大きく聴取されるのはどれか
23		108 午後	14	②	浮腫の原因となるのはどれか
24		108 午後	20	①	転倒・転落の危険性が高い入院患者に看護師が行う対応で正しいのはどれか

問題のタイプ分け
①正解率が高すぎで（99%以上）識別指数が低い(0.1程度か未満）…易しすぎた問題
②正解率が低く（90%未満）識別指数が高い（0.22以上）…良い問題ではあるが難しかった問題
③正解率が低く（90%未満）識別指数も低い（0.15程度）…あまり適切ではない問題

した根拠を表 1 に示す。

２）質問紙調査（Web 調査）

(1)対象

対象は、ア.看護学生、イ.臨床看護師の 2 群とした。総務省統計局が提示する標本調査対象者数の算出式[1)]を使用し、回答比率（本研究での回収率見込み）30%、標本誤差 5%、信頼水準 95%として、本調査の分析に必要な対象数を各 400 名と設定した。回答率を 3 割程度と見込み、学生・看護師ともに 1,200 名に協力依頼の説明文書を配布する事とした。両群は以下に所属するものとした。

ア. 看護師養成所（３年課程）、看護師養成所（２年課程）、５年一貫教育課程、大学のいずれかの最終学年に在籍し、病院機能評価を受けている施設への就職を考えている、2020年の看護師国家試験の受験予定者1,200名。

イ. 過去3年以内に看護師国家試験を受験し合格した者で、現在病院機能評価を受けている病院に勤務する看護師1,200名。

(2)データ収集方法

①対象リクルート方法

ア. 看護学生のリクルート方法

公開資料から、日本看護系大学協議会（JANPU）登録校リストならびに日本看護学校協議会加盟校リストを作成した。一学年あたりの学生数に鑑み、大学は1校あたり10名、専門学校は1校あたり5名に配布を依頼することを前提に、全国の看護学校、看護大学の在籍学生数の割合を反映させ、JANPU登録校から144大学を無作為抽出し、看護学校については日本看護学校協議会加盟校全439校を調査協力依頼対象とした。

イ. 看護師のリクルート

公開資料から、病院機能評価を受けた全国の病院リストを作成、各施設に対し10名ずつ配布依頼することを前提に当該リストから360施設を無作為抽出し調査協力依頼対象とした。

看護師養成所、医療機関の各責任者に、調査に関する説明文書を送付し、協力の同意が得られた施設に対し、調査対象候補者向けの研究説明文書と配布依頼書を送付、該当する学生、看護師に対し、研究説明文書を調査対象候補者に配布するように依頼した。

②対象者の研究参加の流れ

調査対象候補者は研究説明文書を読み、協力の意思のある者は説明文書に記載された web 調査の URL もしくは QR コードから調査サイトにアクセスするよう設定した。サイトにアクセスすると、研究の説明文書が表示され、協力意思のある者は同意の項をチェックし回答へと進めるよう設定した。

(3)調査内容

調査内容は、過去 3 年間に出題された必修問題のうち、佐々木分担班の調査結果を参考に抽出した 24 問について、設問の解答の他、難易度、臨床での必要性、臨床状況との合致の程度、基礎教育での学習で回答可能かの 4 点を問う質問を設定した。なお、本研究班では、佐々木分担班が抽出した設問のうち、問題抽出基準（表 1①～③）に該当しない 1 問（第 107 回午前 19）を削除し、該当する 1 問（設問 21：第 108 回午前 3）に置き換えた。さらに、対象属性（年齢、学年/臨床経験年数、所属する医療機関/養成所の種類、所属する部署）も尋ねた。

(4)分析方法

各設問の解答と設問に対する難易度等の意見について、回答分布を記述統計でまとめたのち、看護学生と看護師で回答分布を比較した。

本調査は、聖路加国際大学研究倫理審査委員会の承認を得て実施した（承認番号:19－A071）。

３．結果

1)対象属性

全 943 施設に調査への協力を依頼し、大学 45 校（協力率 31.3%）、看護専門学校 118 校（同 26.9%）、病院 72 施設（同 20%）の計 235 施設の協力意思を得た（同 24.9%）。これらの施設における調査協力窓口を通じて、看護学生 1,032 人、看護師 713 人に調査協力を依頼し、看護学生 550 人（回答率 53.2%）、看護師 242 人（同 34.0%）から回答を得た。対象の基本属性を表 2、表 3 に示す。看護学生の 34%が大学生、看護師の 37%が大学卒であった。看護師の約 8 割が臨床経験年数 2 年目以下であり、約 7 割が病棟所属だった。

表2. 対象学生の基本属性

n = 550

	Mean ± SD	人数	%
年齢	24.0±6.2		
卒業予定の看護教育課程			
大学		186	33.8
短期大学		0	0.0
専門学校		358	65.1
高校学校・専攻科5年1貫教育		1	0.2
その他		5	0.9
学年			
2年		11	2.0
3年		348	63.3
4年		190	34.5
5年		1	0.2

表3. 対象看護師の基本属性

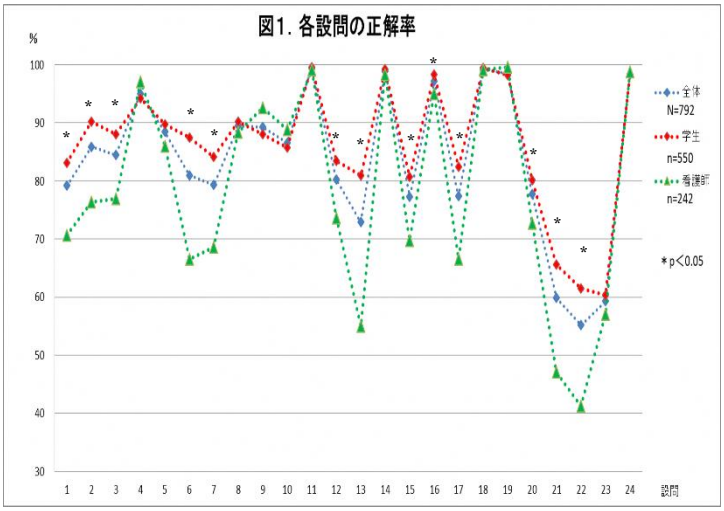
n = 242

	Mean ± SD	人数	%
年齢	24.2±3.6		
卒業した看護教育課程			
大学		89	36.8
短期大学		8	3.3
専門学校		126	52.1
高校学校・専攻科5年1貫教育		17	7.0
その他		2	0.8
臨床経験年数			
1年目		99	40.9
2年目		89	36.8
3年目		52	21.5
5年目		1	0.4
13年目		1	0.4
所属部署			
病棟		175	72.3
外来		1	0.4
集中治療領域		42	17.4
その他		24	9.9

2)各設問の正解率について

全 24 問に対する看護学生、看護師、対象全体の正解率を図 1 に示す。設問 4，9，10，19，24 の 5 問を除き、すべての問題で看護学生の正解率が看護師を上回り、13 問において、学生の正解率が看護師の正解率より有意に高かった（$p<0.05$）。正解率に 20 ポイント以上の差が認められたのは設問 6、13, 22 の 3 問だった。図 1 に示すように、24 問の正解率の高低は両群で類似していた。設問 10 から 24 の「改善」問題のうち、選出根拠①（易しすぎた問題）に該当する設問 11、14、16、18、19、24 の 6 問は看護学生の正解率上位 6 位に合致し、看護師については設問 16 を除き 5 問が上位 6 位に入っていた。また、選出根拠②（良い問題ではあるが難しかったもの）に該当する設問 10，13，15，17，20，21，22，23 の 8 問を見ると、看護学生は設問 10 を除く 7 問、看護師は設問 10 と 20 を除く 6 問が正解率下位 8 位までに入っていた。選出根拠③（あまり適切ではない問題）に該当する設問 12 の正解率は、看護学生は下位 9 位、看護師は下位 11 位であった。

図1. 各設問の正解率



3）各設問の難易度、臨床での必要性、臨床状況との合致の程度、基礎教育課程の学習での回答可能性について

「必修問題として難易度はどのように思うか」の回答結果を、表 4 に示す。設問 15 を除くすべて

の設問で、看護学生が看護師に比べ「適切」と回答した割合が高く、24 問中 16 問で両群の回答分布に有意差が認められた。看護学生は設問 15, 20 の 2 問を除きすべての設問に対し 8 割以上が「適切」と回答し、特に「良問」9 問に対して 9 割以上が「適切」と回答した。看護師は 8 割以上が「適切」と回答した設問は 14 問だったが、「良問」9 問はすべてこれに含まれた。一方、「不適切：簡単すぎる」の回答割合が高かった設問は看護学生、看護師共に設問 11、14、16、18 の 4 問であり、すべて選出根拠①に該当した。「不適切：高度な知識が必要であり難しすぎる」の回答割合が高かった設問は、看護学生は設問 15、20、21、22、23、看護師は設問 12、15、20, 21, 22 で 4 問が共通していた。このうち設問 12 を除き、すべて選出根拠②に該当した。「不適切：問題文が難解で理解が難しい」を選択した人の割合が 24 問中最も高かったのは看護学生、看護師共に設問 17 であった。

表4. 必修問題として、難易度はどのように思いますか

		学生(n=550)				看護師(n=242)				
		適切	不適切：簡単すぎる	不適切：高度な知識が必要であり難しすぎる	不適切：問題文が難解で理解が難しい	適切	不適切：簡単すぎる	不適切：高度な知識が必要であり難しすぎる	不適切：問題文が難解で理解が難しい	
設問	1	94.9%	2.9%	1.8%	0.4%	89.7%	9.9%	0.4%	0.0%	*
	2	97.3%	1.3%	1.5%	0.0%	93.8%	4.1%	1.7%	0.4%	*
	3	90.9%	4.7%	4.4%	0.0%	83.5%	9.9%	6.6%	0.0%	*
	4	94.9%	2.9%	1.6%	0.5%	92.1%	6.2%	1.2%	0.4%	
	5	92.2%	4.5%	1.6%	1.6%	89.7%	7.9%	2.5%	0.0%	
	6	94.9%	3.6%	1.1%	0.4%	90.1%	5.4%	4.1%	0.4%	*
	7	93.1%	4.5%	2.0%	0.4%	83.1%	11.2%	3.7%	2.1%	*
	8	96.2%	3.1%	0.2%	0.5%	93.8%	5.8%	0.4%	0.0%	
	9	93.3%	4.4%	2.2%	0.2%	90.9%	8.3%	0.8%	0.0%	
	10	93.5%	4.0%	1.8%	0.7%	90.9%	7.9%	0.8%	0.4%	
	11	88.7%	10.9%	0.2%	0.2%	75.2%	24.4%	0.0%	0.4%	*
	12	88.7%	3.1%	6.5%	1.6%	74.4%	9.1%	15.3%	1.2%	*
	13	92.4%	2.2%	5.1%	0.4%	86.8%	2.9%	9.5%	0.8%	*
	14	85.1%	14.0%	0.5%	0.4%	74.4%	25.6%	0.0%	0.0%	*
	15	73.8%	2.2%	16.9%	7.1%	77.7%	2.5%	15.3%	4.5%	
	16	81.1%	17.6%	0.7%	0.5%	59.1%	38.4%	1.2%	1.2%	*
	17	79.3%	5.6%	7.6%	7.5%	67.8%	6.2%	13.2%	12.8%	*
	18	86.5%	12.7%	0.2%	0.5%	76.0%	23.6%	0.4%	0.0%	*
	19	91.5%	7.6%	0.7%	0.2%	84.7%	14.9%	0.4%	0.0%	*
	20	76.0%	1.5%	21.6%	0.9%	71.9%	2.5%	22.7%	2.9%	
	21	83.5%	1.8%	13.3%	1.5%	63.2%	4.1%	27.7%	5.0%	*
	22	83.6%	1.8%	12.7%	1.8%	77.3%	1.7%	20.2%	0.8%	*
	23	84.9%	1.5%	10.4%	3.3%	84.7%	2.1%	11.2%	2.1%	
	24	88.5%	10.4%	0.4%	0.7%	81.0%	17.8%	0.4%	0.8%	*

＊ 両群間の回答に有意差が認められたもの（$p<0.05$, χ^2 検定）

「臨床において必要な知識を問う問題だと思うか」の回答結果を、表 5 に示す。設問 4 を除くすべての設問で、看護学生が看護師に比べ「はい」と回答した者の割合が高く、24 問中 17 問で両群の回答分布に有意差が認められた。看護学生、看護師共に「はい」と回答した人の割合が高かった設問は設問 4、8、9、10、18、19 であった。また「いいえ」と回答した人の割合が高かった設問は設問 3、7、12、21 で、これも両群共通であった。一方「わからない」と回答した人の割合が高かったのは、看護学生は設問 3、12、15, 21、看護師は設問 1、3、6、13 で共通するのは設問 3 のみであった。

表5. 臨床において必要な知識を問う問題だと思いますか

		学生(n=550)			看護師(n=242)			
		はい	いいえ	わからない	はい	いいえ	わからない	
設問	1	85.8%	5.1%	9.1%	42.1%	3.7%	54.1%	*
	2	91.5%	3.3%	5.3%	87.2%	6.2%	6.6%	*
	3	51.3%	25.3%	23.5%	23.6%	34.3%	42.1%	*
	4	98.2%	1.5%	0.4%	98.3%	0.4%	1.2%	
	5	86.9%	4.9%	8.2%	81.8%	4.5%	13.6%	
	6	78.4%	8.0%	13.6%	43.0%	7.0%	50.0%	*
	7	63.5%	22.5%	14.0%	50.8%	35.5%	13.6%	*
	8	99.8%		0.2%	98.8%		1.2%	
	9	98.0%	0.7%	1.3%	97.9%	0.8%	1.2%	
	10	97.3%	0.9%	1.8%	94.6%	0.4%	5.0%	
	11	96.0%	1.3%	2.7%	88.0%	6.2%	5.8%	*
	12	53.1%	29.1%	17.8%	26.0%	49.2%	24.8%	*
	13	88.2%	4.5%	7.3%	35.1%	6.6%	58.3%	*
	14	76.2%	10.5%	13.3%	66.5%	24.0%	9.5%	*
	15	70.9%	12.7%	16.4%	62.8%	22.7%	14.5%	*
	16	92.0%	4.5%	3.5%	74.0%	18.6%	7.4%	*
	17	87.1%	5.3%	7.6%	75.6%	10.3%	14.0%	*
	18	98.2%	0.9%	0.9%	94.6%	3.3%	2.1%	*
	19	98.7%	0.5%	0.7%	96.3%	0.8%	2.9%	*
	20	92.9%	3.1%	4.0%	77.3%	4.5%	18.2%	*
	21	50.7%	26.2%	23.1%	25.2%	55.4%	19.4%	*
	22	92.2%	2.9%	4.9%	74.0%	7.0%	19.0%	*
	23	92.5%	3.1%	4.4%	90.5%	6.2%	3.3%	
	24	97.6%	1.5%	0.9%	96.3%	2.1%	1.7%	

＊ 両群間の回答に有意差が認められたもの（$p<0.05$, χ^2 検定）

「臨床の状況に合致した内容だと思うか」の回答結果を、表 6 に示す。設問 4、5、9、19、24 の 5 問を除き、すべてにおいて看護学生が看護師に比

べ「はい」と回答した者の割合が高く、24 問中 13 問で両群の回答分布に有意差が認められた。「はい」と回答した人の割合が高かった設問は、両群共に設問４、8、9、18、19 であった。「いいえ」の回答割合が高かった設問も両群共通で、設問3、12、21 の 3 問だった。一方 30%以上が「どちらともいえない」と回答したのは、両群とも設問３のみであった。

表6. 臨床の状況に合致した内容だと思いますか

		学生(n=550)			看護師(n=242)			
		はい	いいえ	どちらともいえない	はい	いいえ	どちらともいえない	
設問	1	76.7%	5.6%	17.6%	62.4%	8.7%	28.9%	*
	2	91.5%	3.3%	5.3%	87.2%	6.2%	6.6%	
	3	45.6%	23.8%	30.5%	29.8%	37.6%	32.6%	*
	4	97.1%	1.5%	1.5%	98.8%	0.0%	1.2%	
	5	84.5%	4.5%	10.9%	86.8%	3.7%	9.5%	
	6	74.9%	7.6%	17.5%	61.6%	8.7%	29.8%	*
	7	62.4%	17.6%	20.0%	56.2%	26.9%	16.9%	
	8	98.2%	0.5%	1.3%	97.9%	0.8%	1.2%	
	9	97.1%	0.9%	2.0%	98.3%	0.8%	0.8%	
	10	95.6%	0.7%	3.6%	91.7%	2.1%	6.2%	*
	11	90.0%	4.4%	5.6%	83.9%	6.2%	9.9%	*
	12	48.4%	25.6%	26.0%	28.5%	47.1%	24.4%	*
	13	84.4%	4.7%	10.9%	60.3%	11.6%	28.1%	*
	14	72.7%	11.3%	16.0%	65.7%	23.6%	10.7%	*
	15	71.1%	10.7%	18.2%	68.2%	15.3%	16.5%	
	16	87.5%	6.4%	6.2%	71.5%	23.1%	5.4%	*
	17	83.1%	6.0%	10.9%	72.3%	14.5%	13.2%	*
	18	97.3%	0.9%	1.8%	97.1%	1.7%	1.2%	
	19	98.2%	0.4%	1.5%	98.8%	0.4%	0.8%	
	20	91.6%	1.3%	7.1%	78.9%	5.0%	16.1%	*
	21	47.6%	24.0%	28.4%	22.3%	50.4%	27.3%	*
	22	90.4%	3.1%	6.5%	78.1%	8.3%	13.6%	*
	23	89.3%	4.0%	6.7%	87.6%	7.0%	5.4%	
	24	95.5%	2.7%	1.8%	96.7%	1.7%	1.7%	

＊ 両群間の回答に有意差が認められたもの（p<0.05,χ 2乗検定）

「設問で求められる知識は看護基礎教育課程で学習した内容か」に対する回答を、表 7 に示す。全体的に看護学生が看護師に比べ「はい」と回答した者の割合が高かった。看護学生、看護師共に「はい」と回答した人の割合が 50%から 70%台と低かった設問は、設問 23 をのぞき設問 3、12、15、17、20、21 と共通していた。一方「覚えていない」と回答した人の割合が高かったのは、両群とも設問 3、12、15、17、20、21、22、23 であった。両群の回答に有意差が認められたのは、設問 18、21 の 2 問だった。

表7. 設問で求められる知識は看護基礎教育課程で学習した内容だと思いますか

		学生(n=550)			看護師(n=242)			
		はい	いいえ	覚えていない	はい	いいえ	覚えていない	
設問	1	90.0%	3.5%	6.5%	90.9%	0.4%	8.7%	
	2	87.6%	4.0%	8.4%	90.5%	1.2%	8.3%	
	3	64.7%	14.7%	20.5%	71.5%	11.6%	16.9%	
	4	87.5%	3.8%	8.7%	87.2%	4.5%	8.3%	
	5	92.4%	2.2%	5.5%	92.1%	1.2%	6.6%	
	6	91.6%	3.3%	5.1%	88.8%	5.0%	6.2%	
	7	84.7%	6.2%	9.1%	88.0%	4.5%	7.4%	
	8	94.7%	1.5%	3.8%	95.9%	2.9%	1.2%	
	9	89.3%	3.3%	7.5%	91.7%	1.2%	7.0%	
	10	87.6%	3.5%	8.9%	88.8%	3.7%	7.4%	
	11	98.0%	0.5%	1.5%	97.5%	1.2%	1.2%	
	12	78.9%	8.2%	12.9%	77.3%	9.5%	13.2%	
	13	87.1%	4.9%	8.0%	88.0%	3.3%	8.7%	
	14	89.8%	2.4%	7.8%	91.7%	1.7%	6.6%	
	15	54.4%	20.9%	24.7%	61.6%	15.7%	22.7%	
	16	90.9%	3.3%	5.8%	87.2%	3.7%	9.1%	
	17	67.3%	11.3%	21.5%	60.7%	11.6%	27.7%	
	18	96.4%	1.6%	2.0%	92.6%	2.5%	5.0%	*
	19	91.6%	3.1%	5.3%	89.3%	2.9%	7.9%	
	20	62.7%	15.6%	21.6%	58.3%	15.3%	26.4%	
	21	69.3%	13.5%	17.3%	56.6%	12.8%	30.6%	*
	22	84.7%	3.6%	11.6%	80.2%	5.0%	14.9%	
	23	81.5%	6.0%	12.5%	78.5%	7.4%	14.0%	
	24	94.4%	1.6%	4.0%	91.3%	2.9%	5.8%	

＊ 両群間の回答に有意差が認められたもの（p<0.05,χ 2乗検定）

４．考察

本調査の対象リクルートにおいて、大学の協力率が専門学校に比べて高く、また病院に比べ看護基礎教育課程の協力率が高いことから、看護師国家試験のあり方に関する本調査への関心の高さを反映した協力状況であることが推察された。また看護学生の回答率は 50%を超え、想定を大きく上回る結果となったが、これは調査時期が 11～12 月と国家試験直前であったことも一因と考えらえる。

正解率について、全 24 問のうち学生の正解率

が看護師より高かったものは19問、そのうち有意に高かったものは13問であった。調査時は看護学生が国家試験受験に向け集中的に学習していた時期であったこと、また過去問として解いた経験があったことが正解率の高さをもたらしたと考えられる。一方看護師の正解率が高かった問題は、フェンタニルの保管に関するもの（設問４）、腎機能を示す血液検査項目に関するもの（設問9）、喀血の出血部位（設問10）など、日々の臨床経験の中で確実に必要とされ強化される知識であることが示唆された。看護師の正解率が低い問題は、小児・母性分野（設問6、13）や、保健統計や理論に関する問題（設問7，21）で、これらは日々の実践から離れた内容であると考えられる。一方で心音（設問22）や浮腫（設問23）のアセスメントに関する設問の正解率も低く、所属部署で日々使用する知識、技術が限定されていることも推察された。

難易度について、1問(設問15)を除いて学生の方が看護師よりも「適切」と評価する割合が高かった。特に、学生は全設問において7割以上が「適切」と回答していた。「良問」の全9問について9割以上の学生が適切であると回答し、看護師も2問（設問3、7）を除き約9割以上が適切と回答していた。「良問」の難易度の適切性について、教員を対象としたフォーカスグループインタビュー（佐々木分担班）では、「適切」「易しいが易しすぎない」が5問（設問2、3、4、5、6）であり、「簡単だがおさえておくべき問題」（設問1)、「難しくはない」（設問8）と評価していた。これより、正解率、識別指数による問題評価は、教育現場、臨床的見地とも一致し、妥当性があることが示唆された。一方、「不適切（簡単すぎる)」として挙げられた問題（設問11，14，16，18）は、看護師、学生いずれも正解率が極めて高く、今回の選出基準①（易しすぎた問題）とも合致する結果であった。基礎代謝量、足浴、氷枕、浣腸に関する基礎的な知識を問う設問であり、高い正解率が求められる必修問題として、基礎知識の確認は必要であるが、より専門性、難易度の高い設問にするよう検討の余地があると考える。

「不適切（高度な知識が必要であり難しすぎる)」と判断された設問20、21は、薬剤の禁忌やストレスに対する生体反応に関する知識項目であった。これらは臨床では知識として有していることが求められるが、高い正解率を求める必修問題としての適切性は検討を要すところと考える。

臨床において必要な知識か否かを問う質問では、1問を除きすべての設問で学生の方が「必要」と回答する者の割合が高かった。看護師は、現所属部署で必要とされる知識か否かを規準に、知識の必要性を判断した可能性が高く、全領域の学習ならびに実習を終えたばかりの学生は、自身が座学、実習で学習した内容は臨床で必要と判断した結果、即ち学習内容が反映された設問であったと考えられる。

臨床の状況に合致しているか否かについて、学生と看護師の回答結果は類似しており、特に「良問」9問（設問1～9）については、ほぼ同じ傾向であった。一方「合致している」と回答した者の割合が看護師の方が高かった設問は5問のみであり、フェンタニルの保管(設問4)、内転の位置(設問5)、経管栄養の有害事象（設問 19)、転倒転落への対応（設問24）に関する問題だったことから、事故につながり得る内容に対し、看護師の臨床状況との合致の認識が高く示されたことが推察された。合致していないと認識された設問は、学生、看護師ともに、設問3、12、21であり、知識としての必要性においてもこれらは共通して評価が低かった。療養環境、理論に関するこれらの問題は臨床での患者ケアに即利用できる知識として認識されないため、必要性、臨床状況との合致が低く認識されたと考える。しかし、看護師国家試験においては、健康課題を持つ人々を生活者として捉え身体的・精神的・社会的に統合された存在として幅広く理解したうえで必要な看護サービスを提供す

るための知識や能力についての出題が求められ[2]、公衆衛生の視点からも患者を取り巻く環境に関する知識、基礎的な生体反応に関する知識は専門職として必須である。そのため、設問の仕方、選択肢の設定を検討したうえで同分野の作問を行うことが必要だと考える。また、比較的正解率の低い問題に対し、基礎教育課程で「学習していない」「学習したか覚えていない」と回答していたことから、各基礎教育課程も正解率の低い設問について自校で確実に教授しているか、学生の知識定着度合を含め確認が必要と考える。

５．結論と今後の必修問題に対する提言

看護学生ならびに看護師免許取得後 3 年以内の看護師を対象に行った本調査結果に基づき、今後の看護師国家試験必修問題に対する提言を以下に述べる。

・必修問題の難易度は、今回「良問」の条件に設定した、正解率 90－95%程度、識別指数 0.2 以上の問題が適切と考えられる。そのためこれに該当する既出問題を参照することが、今後の作問に有効である。

・必修問題として基礎知識を問う設問は必要であるが、設問の仕方、選択肢を工夫するなどして一定の難易度を保ちつつ、専門的知識を問う設問にすることが望まれる。

・習熟した者が正解できる問題、即ち選択根拠②の問題（良問ではあるが難しいもの）を必修問題でも取り入れていくことも重要である。

・臨床で必要と考えられる知識は、必修問題としては難易度が高いと判断されるものが多い。そのため、臨床の状況に則した問題のうち、知識の不足が事故に繋がり得るものは必修問題とし、その他は一般問題、状況設定問題とするなど、すみわけを図る。

・国家資格付与に関わる試験として、厚生労働省の報告書[3]に示される強化すべき教育内容、すなわち「対象集団の顕在・潜在している問題を把握する能力の強化、地域包括ケアシステム等の構築に向けて施策化する能力の強化、大規模災害や感染症等の健康危機管理能力の強化」との整合性を図る。

・臨床判断の基本となる知識、資質を問うための試験となるよう心音、肺のサーファクタントの問題に示されるような、具体的なアセスメント能力を問う設問を今後も導入する。

・臨床で即必要な知識を問う問題ではないものも、長期的視座から、看護師として必要な知識（患者を取り巻く環境に関する知識、基礎的な生体反応に関する知識等）を問う問題も取り入れる。

・地域包括ケアシステムが今後いっそう進められ、看護職の活動の場が広がるであろうことを視野に、これに関連して保有しておくべき知識を問うものとする。

・必修問題として、医師国家試験に含まれるような禁忌選択肢（絶対間違ってはいけない問題）を導入するのも一案である（医療倫理に関する事、カテ―テルの長さ、転倒転落など事故につながり得るもの等）。

６．文献リスト

1）総務省統計局ホームページ
https://www.stat.go.jp/koukou/trivia/careers/career8.html
（2019 年 8 月 6 日アクセス）

2）厚生労働省 医道審議会保健師助産師看護師分科会：保健師助産師看護師国家試験制度改善検討部会報告書（平成 28 年 2 月 22 日）
https://www.mhlw.go.jp/file/05-Shingikai-10803000-seikyoku-Ijika/0000115632.pdf
（2020 年 2 月 13 日アクセス）

3）厚生労働省　看護基礎教育検討会報告書（令和元年 10 月 15 日）.
https://www.mhlw.go.jp/content/10805000/000557411.pdf（2020 年 5 月 29 日アクセス）

資料２

WEB 調査票

初期画面：下記①、②、③、④、⑤はすべて対象向け説明文書から引用して Web 画面に表示した。

①調査タイトル

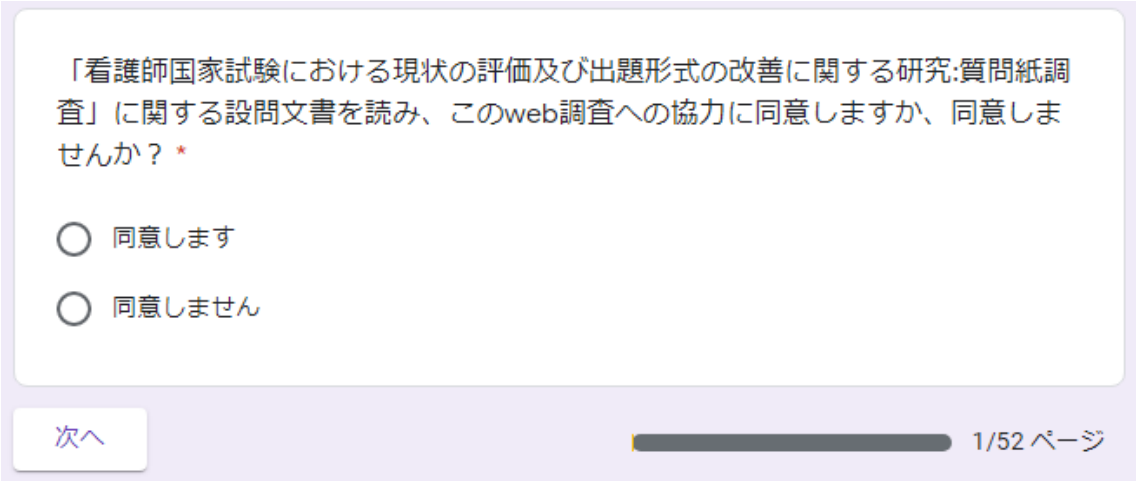
②アンケート調査ご協力依頼文

③倫理的配慮、メリット・デメリット

④所要時間

⑤注意事項(途中で入力結果の保存ができないため一気に仕上げることが必要)

⑥調査協力への意思表示ボックス



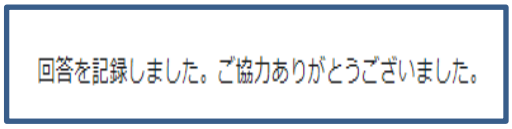
□同意します

こちらにチェックすると国家試験問題が表示される画面にリンクする。

□同意しません

こちらにチェックするとここで終了。下記画面が表示される。

送信を押すと、下記画面が表示される



資料２つづき

設問と回答画面：この画面を調査対象の 24 設問分繰り返す

設問１　標準的な発育をしている乳児の体重が出生時の体重の約 2 倍になる時期はどれか。

１．生後 3 か月

２．生後 6 か月

３．生後 9 か月

４．生後 12 か月

※回答後は、下記画面へ飛ぶ

設問１についての質問

標準的な発育をしている乳児の体重が出生時の体重の約２倍になる時期はどれか.
１．生後３か月
２．生後６か月
３．生後９か月
４．生後１２か月

※正答は　１　でした。

１．設問〇は臨床において必要な知識を問う問題だと思いますか。

１）はい

２）いいえ

３）わからない　or　所属部署に関わりの低い内容のためわからない

２．設問〇は臨床の状況に合致した内容だと思いますか。

１）はい

２）いいえ

３）どちらともいえない

３．設問〇は必修問題として、難易度はどのように思いますか。

１）適切

２）不適切：簡単すぎる

３）不適切：高度な知識が必要であり難しすぎる

４）不適切：問題文が難解で理解が難しい

４．設問〇で求められる知識は看護基礎教育課程で学習した内容だと思いますか。

１）はい

２）いいえ

３）覚えていない

資料２つづき

属性に関する質問：

【学生】

１．あなたの年齢はおいくつですか。

（　　）歳

２．卒業予定の看護教育課程はどれですか。

□　大学
□　短期大学
□　専門学校
□　高校学校・専攻科５年１貫教育
□　その他（　　）

３．学年をご記入ください。

（　　）年・・・2～5 の選択としている

【看護師】

１．あなたの年齢はおいくつですか。

（　　）歳

２．卒業した看護基礎教育課程はどれですか。

□　大学
□　短期大学
□　専門学校
□　高校学校・専攻科５年１貫教育
□　その他（　　）

３．臨床経験年数で該当するものを選んでください。

（　　）年・・・1～3 の選択としている

４．所属部署を選んでください

□　病棟：外科
□　病棟：内科
□　病棟：外科・内科混合
□　病棟：精神科
□　病棟：小児科
□　病棟：産科・婦人科
□　病棟：緩和ケア
□　外来：一般外来
□　外来：通院治療センター

資料２つづき

- ☐ 集中治療領域：ICU
- ☐ 集中治療領域：HCU
- ☐ 集中治療領域：CCU
- ☐ 集中治療領域：NICU
- ☐ 救急外来／救命救急センター
- ☐ 手術室
- ☐ 透析室
- ☐ 訪問看護部門
- ☐ その他

最終画面：

ご協力ありがとうございました。質問は以上です。回答を送信すると、研究協力の撤回ができなくなります。回答を送信してよいですか。 *

○ はい ⇒ はいを選択された方は、左下にあります「送信ボタン」を押してください。データが送信されます。

○ いいえ ⇒ このままブラウザまたはタブの「×」ボタンを押して、ページを閉じてください。データは送信されず、終了となります。

戻る　送信　6/6 ページ

「はい」を選択し「送信」ボタンを押した場合の最終画面

『看護師国家試験における現状の評価及び出題形式の改善に関する研究: 質問紙調査』

回答を記録しました。ご協力ありがとうございました。

資料２つづき

質問紙調査の対象国家試験問題（全 24 問）

※黄色マーカーが正答肢

設問１

標準的な発育をしている乳児の体重が出生時の体重の約２倍になる時期はどれか.

１．生後３か月

２．生後６か月

３．生後９か月

４．生後１２か月

設問２

成人患者の気管内の一時的吸引における吸引圧で正しいのはどれか.

１．－100～－150mmHg

２．－200～－250mmHg

３．－300～－350mmHg

４．－400～－450mmHg

設問３

シックハウス症候群に関係する物質はどれか.

１．アスベスト

２．ダイオキシン類

３．放射性セシウム

４．ホルムアルデヒド

設問４

他の医薬品と区別して貯蔵し、鍵をかけた堅固な設備内に保管することが法律で定められているのはどれか.

１．ヘパリン

２．インスリン

３．リドカイン

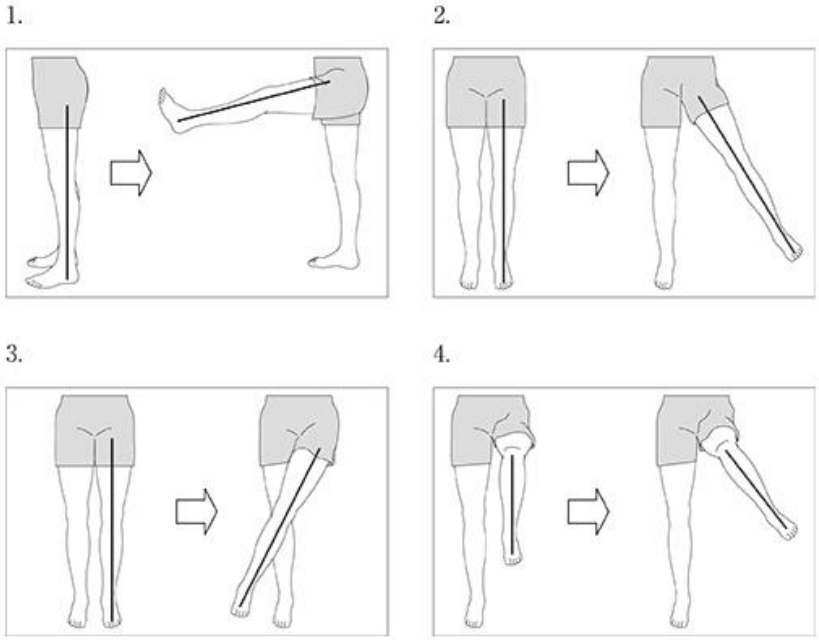
４．フェンタニル

資料２つづき

設問５

１．　　股関節の運動を図に示す.

内転はどれか.



正解３

設問６

母乳中に含まれている免疫グロブリンで最も多いのはどれか.

１．IgA

２．IgE

３．IgG

４．IgM

設問７

日本における平成 28 年（2016 年）の総人口に占める老年人口の割合で最も近いのはどれか.

１．17%

２．27%

３．37%

４．47%

設問８

成人のグリセリン浣腸で肛門に挿入するチューブの深さはどれか.

１．2cm

２．5cm

３．12cm

４．15cm

資料２つづき

設問９

腎機能を示す血液検査項目はどれか.

１．中性脂肪

２．ビリルビン

３．AST〈GOT〉

４．クレアチニン

５．LDL コレステロール

設問１０

喀血が起こる出血部位で正しいのはどれか.

１．頭蓋内

２．気道

３．食道

４．胆道

設問１１

足浴の効果で最も期待されるのはどれか.

１．食欲増進

２．睡眠の促進

３．筋緊張の亢進

４．皮膚温の低下

設問１２

療養施設、社会福祉施設等が集合して設置されている地域の昼間の騒音について、環境基本法に基づく環境基準で定められているのはどれか.

１．20dB 以下

２．50dB 以下

３．80dB 以下

４．110dB 以下

設問１３

肺サーファクタントの分泌によって胎児の肺機能が成熟する時期はどれか.

１．在胎 10 週ころ

２．在胎 18 週ころ

３．在胎 26 週ころ

４．在胎 34 週ころ

資料２つづき

設問１４

基礎代謝量が最も多い時期はどれか.

１．青年期

２．壮年期

３．向老期

４．老年期

設問１５

病床数 300 床以上の医療機関で活動する感染制御チームで適切なのはどれか.

１．医師で構成される

２．各病棟に配置される

３．アウトブレイク時に結成される

４．感染症に関するサーベイランスを行う

設問１６

氷枕の作り方で適切なのはどれか.

１．氷を隙間なく入れる

２．濡れたタオルで覆う

３．内部の空気は残しておく

４．水漏れがないことを確認する

設問１７

関節や神経叢の周辺に限局して起こる感覚障害の原因はどれか.

１．脊髄障害

２．物理的圧迫

３．脳血管障害

４．糖尿病の合併症

設問１８

排便を促す目的のために浣腸液として使用されるのはどれか.

１．バリウム

２．ヒマシ油

３．グリセリン

４．エタノール

資料２つづき

設問１９

経腸栄養剤の副作用（有害事象）はどれか.

１．咳嗽

２．脱毛

３．下痢

４．血尿

設問２０

インドメタシン内服薬の禁忌はどれか.

１．痛風

２．膀胱炎

３．消化性潰瘍

４．関節リウマチ

設問２１

セリエ，H. が提唱した理論はどれか.

１．危機モデル

２．ケアリング

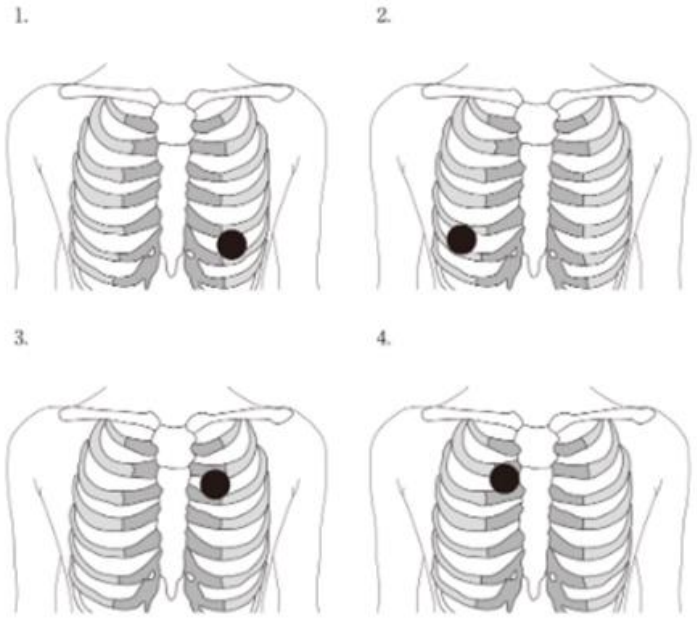
３．セルフケア

４．ストレス反応

設問２２

心音の聴取でⅠ音がⅡ音より大きく聴取されるのはどれか.

ただし、●は聴取部位を示す。



正解１

資料２つづき

設問２３

浮腫の原因となるのはどれか.

１．膠質浸透圧の上昇

２．リンパ還流の不全

３．毛細血管内圧の低下

４．毛細血管透過性の低下

設問２４

転倒・転落の危険性が高い成人の入院患者に看護師が行う対応で正しいのはどれか.

１．夜間はおむつを使用する

２．履物はスリッパを使用する

３．離床センサーの使用は控える

４．端坐位時に足底が床につくベッドの高さにする